

タイと日本の災害マネジメントワークショップ

村尾 智¹⁾

はじめに

2008年7月21日(月), 国際協力機構 (JICA), タイ災害軽減局 (DDPM), 同教育省の共催で「Workshop “Disaster Management in Thailand and Japan”」がバンコクのサイアムシティホテルで開催された。本ワークショップは事前に無料情報誌などに広告を出し、一般からの参加を広く呼びかけた。その結果, 当日は160名近くが参加したが, 筆者も傍聴を許されたので, ここに報告したい。

会議の趣旨

会議では, はじめにJICAタイ事務所の小野田勝次所長があいさつに立ち, 趣旨を以下のように説明した。



写真1 集合写真におさまる会議の関係者。こちらからみて, 前列左側に小野田JICAタイ事務所所長, 右側にDDPMアマンチャ局長。後列右から5人目に近藤委員, その左が中村総括。

「JICAは2005年の第2回世界防災会議以降, 防災分野で次の4つの目標を掲げている。

(1) 社会経済開発の課題の中に防災を含める; (2) 日本の技術を活用する; (3) リスクについての理解や意識を向上させるとともに行政の能力を向上させ, 総合的な防災計画策定を支援する; (4) 地域コミュニティ自身の能力強化および行政との連携の強化をはかる。今回のワークショップはこうした原則をふまえて2006年9月から今年の8月まで行ってきたプロジェクト「Capacity Development on Disaster Management in Thailand」を総括し, 成果を公表するものである。」

発表内容

上記プロジェクトでは, 「ハザードマップ」「防災計画」「警報システム」「避難訓練」「研修」「教育」の6つのテーマで, 関係機関からメンバーを集め, タスクフォースを形成して活動を進めたとのことだが, この日の発表では, そのうち, ハザードマップ, 防災計画, 教育に力点が置かれているようにみえた。

ハザードマップ関連では, DDPMよりハザードマップ作製の方法論や地理情報システムについて発表があるとともに, 会場の壁に成果物が張り出された。①対象が地域コミュニティであること; ②大縮尺の地図を用いて地域ごとの事情を配慮した細やかな図面作りをしていること; ③地域住民が図面を実際に見て修正意見を上げハザードマップがより実的なものとして完成するしくみが確立されていること; ④ハザードマップを有効に使うため, 国, 県, 地域のレベルごとに, 研修等の内容を検討している点が印象的であった。

防災計画のセッションでは, 災害管理計画をパイロ

キーワード: タイ国防災能力向上プロジェクト, タイ災害軽減局, タイ教育省, 国際協力機構

1) 産総研 地圏資源環境研究部門



写真2 講演する近藤ひろ子委員。

ットサイトで作成した経緯および防災白書の内容が公開された。ここでも住民参加型アプローチが強調され、地域住民とのブレインストーミングがコミュニティレベルの計画作成に有効であると報告された。また、JICAの中村 哲なかわら さとしタイ防災専門家チーム総括から、わが国の防災について講演が行われた。中村総括は、わが国で防災関連業務の根拠となる法律、中央防災会議など日本の災害マネジメントの特徴としくみ、予算規模、予算の分配項目、災害対策、啓蒙活動と、広範なトピックスを取り上げ、手際よくまとめた。また、罹災した企業をできるだけ早く復旧させ、活動を再開させるための「事業継続計画 (Business Continuity Plan : BCP)」に言及し、注目を集めた(筆者注: BCPについては、たとえば、“民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門調査会ほか、2005”が参考になる)。

研修に関してはeラーニングの発表があった。パソコンで学べる教材を、災害管理、洪水、CBDRM (Community Based Disaster Risk Management)、地すべり、地震、津波について開発し、CDで配布しているとのことであった。

特別講演

この日、教育に関しては、近藤ひろ子氏による特別講演が準備されていた(写真2)。現役の小学校教頭でタイ国防災能力向上プロジェクト支援委員でもある近藤氏は、自らの防災教育への取組みに基づいて、防災の3つのポイント(第1図)、地域防災に必要な要

「防災の3つのポイント」って何？

- ①子どもおとなも
- ②学校、家庭、地域が連携
- ③行政(中央も地方も)が主体的に

「自助」「互助」「公助」の考えに沿って、
いいと思う事を出し合い、話し合い、
できることから一つずつ行動へ



ためまぬ歩み・・・真の「防災力」へ

第1図 防災のポイント(講演では同じ内容を示したタイ語版スライドを使用)

素、赴任校における経験、海外での援助の経験、開発した教材を紹介した。教材の中には避難時の約束事(おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない)を覚えさせる歌もあったが、「おはしもの歌」として普及しているとの事であった。

そして、防災教育から見えてきたものとして、(1)学校とコミュニティの連携が不可欠であること；(2)行政の主体的な取り組みと防災教育への理解なくしては進展がないことを指摘するとともに、防災教育は単なる災害対応の知識習得ではないと述べた。近藤氏の経験では、児童が防災学習に取り組み、防災についての体験や地域社会との交流を積み重ねるうちに、命への思いを深め、「自分の命も他の人の命も大切にする世界」へと考えが発展してゆくという。

講演を終えるにあたって、近藤氏はタイ教育省副大臣の次の言葉を紹介し、会場から大きな拍手がわいた。

「自分の命も他の人の命も大切に作る心」、「支えあい、助け合って生きていく心」を、子供たち一人一人の中に、いや、国すべての人の中に育んでいくことは、そのまま温かい血の通った国づくりにつながっていきます。それぞれの国で温かい国づくりをしていくことは、平和な世界づくりにつながっていくのです。みんなで手をつなぎあって、できることから、一つずつやっけていきましょう。

終りに

今回のワークショップで主役であったタイのDDPMは、緊急対応から予防に至るまでの災害対策全般を担う目的で設立されながら、情報収集・蓄積・調整がままならないといわれてきた。ここにわが国の経験を伝え、タスクフォースごとに成果を出した点で、JICAプロジェクト「Capacity Development on Disaster Management in Thailand」は評価されるべきであろう。また、プロジェクトの成果を世に問うた本ワークショップは、防災に関してJICAが地域共同体を対象として、学際的・省際的かつ参加型のアプローチを取ろうとしている点がよく伝わっており、意義深いものであった。

本ワークショップは運営もユニークであった。参加者の発表と討議は、原則、日本語とタイ語、一部英語で行われた。これには賛否両論あろうが、日本とタイ

の協力を強調する印象を与えた点、優秀な通訳により意思疎通が容易となった点で成功と言ってよいであろう。今後、同様のプロジェクトが二国間のみならず多国間協力として各地で実施されることを期待したい。

謝辞：JICAタイ事務所および近藤ひろ子氏には原稿に目を通していただき、内容を確認していただいた。また、近藤氏には会議の写真を提供していただいた。記して御礼申し上げる。

文 献

民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門調査会、企業評価・業務継続ワーキンググループ、内閣府 防災担当 (2005)：事業継続ガイドライン 第一版 -わが国企業の減災と災害対応の向上のために- 平成17年8月1日 本文 33pp., 別添 5pp.

MURAO Satoshi (2009) : JICA Workshop Report "Disaster Management in Thailand and Japan".

<受付：2008年9月24日>